

# 常時観測道路交通データからみる新東名の開通効果



道路研究部 道路研究室 研究官 橋本 浩良 研究官 諸田 恵士  
 部外研究員 水木 智英 (室長 博士(学術)) 高宮 進

(キーワード) プローブデータ、交通量データ、道路整備効果

## 1. はじめに

平成24年4月14日に新東名高速道路・御殿場JCT～三ヶ日JCT間が開通し、新東名高速道路と東名高速道路のダブルネットワークが形成された(図1)。

道路研究室では、中部地方整備局と連携し、新東名の開通効果分析に取り組んでいる。本稿では、交通量データや民間プローブデータの常時観測道路交通データを用いた分析結果の一部を紹介する。

## 2. 静岡県内の主要断面における交通量の変化

新東名の開通後、図2に示した静岡県中部断面における新東名、東名、国道1号の交通量が14%増加している。西部断面は13%、東部断面は7%増加しており、静岡県内の交通量が増加している。

## 3. 新東名・東名の速度、所要時間の定時性

新東名の開通後、東名は、旅行速度が向上している。また、新東名は、東名より速く、全区間ほぼ100km/hで走行できることがわかる(図3上図)。

御殿場JCT～三ヶ日JCT間の所要時間をみると、新東名開通前後で、東名の所要時間のばらつきが34分(101分～135分)から12分(100分～112分)に減少しており、定時性の大幅な向上が見られた。新東名は、所要時間が90分～102分と開通後の東名より短く、ばらつきは同程度であることがわかった(図3下図)。

## 4. おわりに

新東名の開通により、関東・中部間の人や物の交流の活発化が期待される。

道路研究室では、引き続き中部地方整備局と連携して新東名の開通効果分析を進めていく予定である。

### 【参考】

1) 新東名(静岡県)インパクト調整会議HP  
<http://www.shintomei-shizuoka.net/>



図1 新東名の開通区間と今後の開通予定



図2 静岡県内の主要断面における交通量の変化

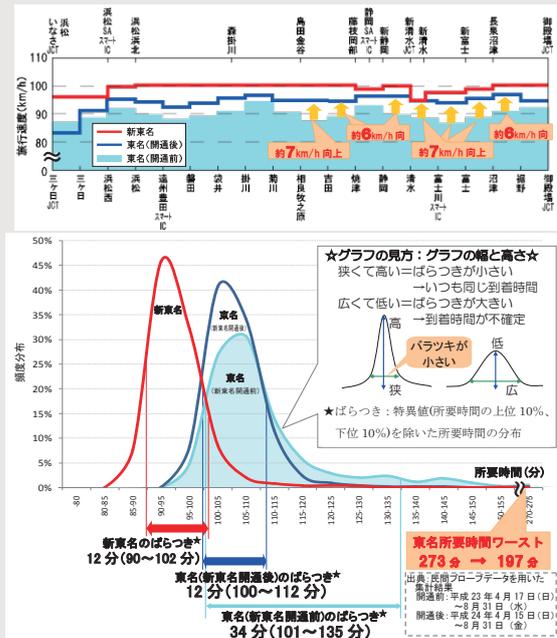


図3 御殿場JCT～三ヶ日JCT間の旅行速度と所要時間の分布